

現在、中華人民共和国の新疆ウイグル自治区と呼ばれる地は、テュルク系民族の住む土地

「東トルキスタン」

です。1949年に中国共産党に支配されてから、激しい弾圧が行われています。

●★民族の文化・歴史・宗教・言語などが消されようとしています

民族の伝統的な文化は破壊され、彼らの信仰するイスラム教の宗教活動や、民族の歴史や文化に関する出版活動などが制限されています。学校教育は中国語で行われ、ウイグル語の追放が進行中です。

●★大量の漢人が東トルキスタンに移住し、ウイグルの若者が内地へと強制移送されています

中国政府は「少数民族」の同化を目的として、さまざまな民族浄化政策を行っています。そして政府主導の元、大量の漢人の移住を進め、それと平行して数年前からは、若い未婚女性を数万人単位で強制的に中国内地へ移送しています。さらに農村部の若者達も中国沿岸部に移送し、安価な労働力として酷使しています。東トルキスタンにおいてさえ、ウイグル人は少数派へとおしやられようとしています。

●★核実験場とされ多くの犠牲者が出ています

「さまよえる湖」として有名なロプノールが中国の核実験場でした。住民が住んでいるすぐそばであるにも関わらず、避難させるなどの対策が全く行わないまま核実験が46回も行われ、100万人以上の放射能による犠牲者が出ているとみられます。これら犠牲者への保証などは一切行われていません。

●★地域住民の集まりなどが政府の管理下に置かれています

宗教的・地域的つながりを失った若者たちはモラルを失い、さらにさまざまな抑圧や経済的な差別により、ドラッグに溺れてエイズに罹るなど深刻な社会問題を生んでいます。

●★資源が強奪されています

東トルキスタンは石油、石炭、レアメタルなどの資源が豊富な地域ですが、全て中国の中央へと吸い上げられ、現地の住民である東トルキスタンの人々にはなんら恩恵をもたらしていません。

「新疆ウイグル自治区」は中国共産党支配以降、名ばかりのウイグル人の主席を置きながらも、実権は漢人が務める共産党書記が握っています。「自治区」とは程遠いのが現状です。

そして、このような残酷な扱いに異議を唱える者は、「分離主義者」、「テロリスト」などとレッテルを貼られ、まともな手続きも経ずに監獄や強制労働所に送られているのです。

●★グルジャ事件について

グルジャ事件はマッシュラップの禁止に対する抗議デモから起きました。

マッシュラップとはウイグル人の地域コミュニティで行なわれる集まりです。ある年齢に達してマッシュラップに参加するようになったときに、地域社会への参加も意味することになります。青少年がアルコールや麻薬などに走ってしまうことを防ぐ役割も果たしていました。1997年当時、グルジャ周辺では青年らのマッシュラップの指導者たちがサッカーリーグを組織し、トーナメント戦による試合を行っていました。

しかし、ウイグル人の団結を恐れた公安当局はマッシュラップを禁止し、強制的に解散させ、指導者を不当に逮捕したのです。当局の弾圧に対してウイグル人の若者たち1000人が、1997年の2月5日に抗議のためにデモに参加し、横断幕を掲げ、宗教的なスローガンを叫び行進しました。

公安警察、武装警察はデモ隊に対して発砲し鎮圧しました。そしてデモ参加者をスタジアムに追いやり、厳冬下で零下20度の状況で放水をして多くのウイグル人を凍死させました。当時、拘束者があまりにも多いためイリ地区の留置所はすべて一杯になったといえます。

グルジャ事件の後も、イリ地区では事件に関与した疑いがあるとして数万人が逮捕され、刑務所内での拷問により多くのウイグル人が亡くなりました。

虐殺事件から14年を経た今でも、監獄で不当に拘留されている人がいます。

2009年7月のウルムチの事件は外国人の撮った映像があるため、中国政府の公式発表が事実でないことが分かりましたが、グルジャ事件については実像がなかなか表に出てきませんでした。

しかしこの多数の犠牲者を出したグルジャ事件は記憶され、中国政府に対する抗議行動が、在外ウイグル人組織によって毎年行われてきました。